



川中だより

令和6年6月28日（金）発行

新発田市立川東中学校

学校だより 第3号

TEL (25)2011 FAX (25)2022

<https://kawahigashi-j.shibata.ed.jp/>

6月7、21、22日に中体連の下越大会が行われました。水泳競技については、新潟市大会と合同で行っている関係で、17、18日に実施しました。本校からは、バレーボール部、軟式野球部、卓球部が大会に出場し、学校には部活動設置はないが地域クラブ等で日頃練習を行っている生徒が、水泳、新体操、サッカーの大会に出場しました。

多くの会場を回り、生徒達の姿に大きな感動をもらいました。時間が取れる会場では応援生徒に混ざって一緒に生徒達に声援をおくることができました。勝ち負けはつきもので、大会で入賞し、県総体に出場できる部や選手がいる一方で、残念ながら本大会をもって引退する3年生もいます。どの生徒達にも、今大会で学んだことを通して、新たな目標をもち、次なる挑戦をしてほしいと思います。

私自身も小学1年生の時から剣道を習い、一時中断した時期もありますが、大学生まで部活動として剣道をしてきました。また、教職についてからもそのほとんどの時間を剣道部の顧問を務め、生徒達に熱く指導し、一緒にたくさんの経験をさせてもらってきました。

ところで、その剣道には珍しいルールがあるのをご存じですか？

剣道という競技では、有効な技を出して「一本」をとった時でも、ガッツポーズ等をしてはいけません。「見苦しい引き上げ」という明確なルールのもと、ガッツポーズをすると一本が取り消されてしまうのです。詳しく調べてはいませんが、私の知っている限り、ガッツポーズをすると注意や指導等は受ける競技はあっても、有効なポイントを取り消されるというルールがあるのは剣道しか知りません。(もし、あったら教えてください)

これは、礼節を大切にするという意味合いと、打った後も油断することなく最後まで相手から目を離してはいけない(残心)という剣道特有の考え方からくるものです。

この考え方には賛否両論があり、「なぜガッツポーズをしてはならないのか」という意見もありますし、「相手を大切に考えるのはとても大切だ」という両方の意見が、国内外の人たちから言われています。

私は個人的には、この剣道の考え方は好きですし、勝ち負けにこだわらず相手に礼を尽くす姿勢は、真のスポーツマンシップとも言えると思います。だからと言ってガッツポーズをする選手がダメだとは思いません。日頃から一生懸命練習を行い、苦しいこともある中で培った技術を発揮し、一本を決めた…スマッシュを決めた…勝つことができた時に、心から湧き上がる感情を表現すること自体は、とても自然なことですし、見ていても気持ちがいいものだと思います。

大切なことはスポーツという競技を通じて、勝っても負けても相手を大切にすることを忘れないことがスポーツマンシップにつながるのではないかと感じます。

地区大会が終了し、残念ながら負けてしまった部活動の生徒に「下越大会はどうだった？」と質問したところ、「最後まであきらめず、自分達の試合ができました」「最後まで笑顔で仲間と声を掛け合うことができました」と話していました。また、会場でひたむきに競技に向かい、仲間を精一杯応援し、惜しみない拍手を送る等、ともに喜び、悔しがる生徒達の姿からは、結果だけではなくスポーツ(部活動)を通じて、仲間と一緒に多くのことを学ぶことができたのではないかと嬉しく思います。これからも、様々な場面で真剣に挑戦する生徒達を我々教職員は全力で応援していきたいと思っています。